

内住するキリスト

聖書：ローマ 8:9-11, 28-29

- I. ローマ第8章は全聖書の焦点また宇宙の中心であると考えられます。こう
いうわけで、わたしたちはローマ第8章を経験しているなら、宇宙の中心
にいるのです。
- II. ローマ第8章は教理的な章ではなく、経験的な章です。それは三一の教理
について語っているのではなく、クリスチャン生活の経験における三一に
ついて語っています。
- III. ローマ第8章は、信者たちの生活のために、命の霊の法則としての手順を
経た三一の神が神聖な命を信者たちに与えることを啓示しています——
ローマ 8:2, 6, 10-11, 26-29。
- IV. ローマ第8章は、三一の神の究極的完成としてのすべてを含む命を与える
霊に関してです。この霊は、わたしたちを命、性質、表現において、キリ
ストと完全に同じにならせます。これがローマ第8章です。
- V. 「確かに神の霊があなたがたの中に住んでいるなら、あなたがたは肉の中に
いるのではなく、霊の中にいるのです」——ローマ 8:9 前半：
 - A. この章がわたしたちに明らかにしているのは、どのようにして三一の神、
すなわち、父(15節)、子(3, 29, 32節)、霊(9, 11, 13-14, 16, 23, 26節)
がご自身を命として(2, 6, 10, 11節)、三部分(霊、魂、体)から成る人
であるわたしたちの中へと分与し、わたしたちを彼の子たちとならせ(14-
15, 19, 23, 29, 17節)、キリストのからだを構成するかということです
(12:4-5)。
 - B. わたしたちが三一の神の霊にわたしたちの中でご自身のホームを造って
いたただくなら、わたしたちの経験においてわたしたちは霊の中におり、もは
や肉の中にはいません。
 - C. わたしたちがそのようであるなら、三一の神はその霊としてわたしたちの
霊から(8:10)、わたしたちの思い(6節)によって代表されるわたしたちの魂
の中へと拡大し、最終的に彼はわたしたちの死ぬべき体にさえ命を与えま
す(11節)。
- VI. 「もしだれでもキリストの霊を持っていないなら、その人はキリストのもの
ではありません」——ローマ 8:9 後半：
 - A. このことは、わたしたちがキリストのものであることが彼の霊にかかって
いることを示しています。
 - B. もしキリストの霊がないなら、あるいはもしキリストがその霊でないなら、
わたしたちがキリストに結合されてキリストに属することはできません。

- C. しかしながら、キリストはその霊であり(Ⅱコリント 3:17)、彼はわたしたちの霊の中におられ(Ⅱテモテ 4:22)、わたしたちと一つ霊です(Ⅰコリント 6:17)。
- D. 神の霊とキリストの霊は二つの霊ではなく、一つ霊です。
- E. パウロはこれらの称号を交換的に用いています。それが示しているのは、ローマ第 8 章 2 節の内住する命の霊が、三一の神全体のすべてを含む命を与える霊であるということです。
- F. 9 節で神、その霊、キリストがすべて述べられています。
- G. わたしたちの中におられるのは三者ではありません。ただひとり、すなわち、三一の神の三一の霊がおられます——ヨハネ 4:24. Ⅱコリント 3:17. ローマ 8:11。
- VII. 「しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です」——ローマ 8:10 :
- A. 「キリストがあなたがたの中におられる」は、ローマ人への手紙における極めて重要な点です :
1. 第 3 章で、キリストは十字架におられ、ご自身の血を流して、わたしたちを贖いました。
 2. 第 4 章で、キリストは復活の中にあります。
 3. 第 6 章で、わたしたちはキリストの中にいます。
 4. 第 8 章で、キリストはわたしたちの中のその霊です。
- B. わたしたちが主を信じる前、内側のわたしたちの霊は死んでおり、外側のわたしたちの体は生きていました。
- C. 今やわたしたちの中にはキリストがおられるので、外側のわたしたちの体は罪のゆえに死んでいますが、内側のわたしたちの霊は義のゆえに命です。
- D. キリストが命としてわたしたちの中へと入って来ることは、わたしたちの体の死の状態を暴露します。
- E. わたしたちの霊の中には、義としての霊なるキリストがおられ、命という結果になります。しかし、わたしたちの肉の中には罪としてのサタンがおり、死という結果になります。
- F. 人の墮落を通して、罪が死をもたらし、人の体に入り、それを神の事柄において死なせ、無力にしました :
1. 神は肉体において罪を罪定めしましたが(3 節)、この罪は、人の墮落した体から引き抜かれたり、根絶されたりしませんでした。
 2. このゆえに、わたしたちの体は依然として死んでいます。
- G. ローマ第 8 章 10 節の霊は、再生された人の霊であり、墮落した人の体と対照的です。
- H. 霊が義のゆえに命であることは、わたしたちの人の霊を指しているの

あって、神の霊を指しているではありません。

- I. わたしたちの霊は再生されているだけでなく、生かされており、命となっています：
 1. わたしたちがキリストを信じたとき、彼は神聖な命の霊としてわたしたちの霊の中へと入って来て、ご自身をわたしたちの霊とミングリングしました。
 2. それによって、二つの霊は一つ霊となりました——Iコリント6:17。
- J. 神の義認において、わたしたちは義を受け入れました。義は、わたしたちの存在の中へと、すなわち、わたしたちの霊の中へと入る三一の神ご自身です——ローマ8:10：
 1. この義は命という結果になります——5:18, 21。
 2. 今やわたしたちの霊は生きてだけでなく、命です。
- VIII. 「イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます」——ローマ8:11：
 - A. この節には三一の神全体があります。それは「イエスを死人の中から復活させた方」、「キリスト」、「あなたがたの中に住んでいる彼の霊」です。
 - B. キリストがご自身を信者たちの中へと分与していることは、「あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます」という言葉によって示されているように、分与がわたしたちの存在の中心で起こるだけでなく、円周まで、すなわちわたしたちの全存在にまで到達することを示しています。
 - C. 「命を与えてくださいます」が示しているのは、神聖ないやしではなく、わたしたちが神の霊にわたしたちの中にご自身のホームを造っていただき、神聖な命をもってわたしたちの全存在に浸透していただいた結果です。
 - D. こうして、彼はご自身の命をわたしたちの死ぬべき、死につつある体を与えて、それをいやすだけでなく、それを生かして、ご自身のみこころを遂行させます。